

というのが全面協力協議ということ
とです。

だから中国はこれだけでも分かるように、実は間接的にハマスを支援しているといえます。では、間接的だけなのか。実はそうではありません。中国とハマスの関係はもうずっと前からあったのです。ハマスという組織ができてから、ずっとあったのです。その動

きははっきりしたのは、フランスの情報当局が見つけた情報によると、ハマスがガザ地区を支配した直後に、ハマスの外交担当者を北京に派遣して、北京で中国とパイプを築いてきたということです。

その前から既にあったのですが、2006年からはほぼおおっぴらになったわけです。ハマスは一応、アメリカからテロ組織と認定されています。テロ組織と認定された場合は、海外の送金が非常に難しくなります。銀行がテロ組織の送金に利用されると、今度その銀行の業務はできなくなってしまうわけですから。ただし、1国だけこのハマスの送金に協力している国があります。それは中国です。中国はハマスの資金援助もし、そして送金も提供しているのです。

さらに、2009年にドイツのマスコミが報道しました。ハマスが使っている武器は実は中国が製造したものだということなのです。それだけではありません。ハマスの軍事訓練は誰がやってあげているか。公然の秘密としてはイランなのですが、イラン自身もそれは否定はしていません。しかし、イランの軍事技術と比べれば、中国の軍事技術のほうが格段に高いわけです。実はハマスの幹部の上層部は中国の軍人

Iran's Top Oil Importers (2022)		
#1	China	58%
#2	Syria	8%
#3	Venezuela	4%
#4	U.A.E	3%
#5	Malaysia	3%

Source: Energy Information Administration

2022年のイランの石油輸出相手国トップはチャイナが58%でダントツ。

(図：United States Institute of Peace)

イラン・中国包括的協力プログラム

2021年3月に締結した協力協定。25年間にわたって経済や安全保障における協力を強化する。

ハマスが2006年1月にパレスチナ・ガザ地区の自治選挙で政権を握った後の4月、マフムード・ザッハール・パレスチナ自治政府外務庁長官がチャイナ訪問をほのめかし、チャイナ側が否定した。

の人材養成をするところに留学して、その技術を学んできているのです。

どういふところかという、中国の河北省の石家荘市にある軍械工程学院です。この軍械工程学院は軍事学校です。この軍事学校は名前のとおり武器の製造と軍事工事を教えています。ハマスの幹部がここで学んでいるわけです。この軍事学校は中国国防部の装備発展部に所属しています。ここでどんな技術を学んだかという、武器製造です。ロケット弾です。ハマスが今使っている主要な武器であるロケット弾です。

そして今、イスラエルがハマスを殲滅するのに一番手こずっている部分はどの部分かという、トンネルです。ガザ地区はトンネルがいっぱいあります。非常に複雑なトンネルで、しかも地下数十メートルぐらい深いところまで掘った、非常に堅固なトンネルがあります。でもおかしいと思いませんか。ガザ地区へはトンネルを掘る機械、あるいは武器を作る機械も当然、輸入禁止のはずです。今、イスラエルが取っている手段としては、ガザ地区の中へは一般人の生活に不可欠なものしか輸入できないわけです。それ以外のもの、例えばトンネルを掘る機械を輸入したい、といったことは当然できないわけです。それでも非常に堅固なトンネルを掘ったりしている。地下何十メートルというトンネルを掘るのには、もうかなり高度な技術を要するわけで



河北省石家庄市にある人民解放军军械工程学院。

(写真：gx211.cn)

す。地下何十メートルとなると、パンカーの爆弾（地中貫通爆弾）で一気に崩壊させるとことは非常に難しい。そういうトンネルがたくさんあります。その技術をどこから得ているかということ、軍械工程学院からなのです。ここで中国がハマスの幹部を養成して、そしてイスラエルと戦うようにさせているのです。

では、そもそも中国の軍事技術はどこから来ているのか。中国が自前で全ての軍事技術を開発しているのか。武器を開発しているのか。実はそうではありません。中国の武器の輸入源、今まで一番輸入している国とはどこか。輸入している国はロシアです。しかしロシアは武器を売ることはしますが、技術はあまり売りがりません。しかも武器を売る際は、必ず肝心なものを破壊したり、隠したりします。つまりロシアは常に中国を警戒しているということです。

では、中国の武器の技術はどこから得ているかということ、主な国は2か国です。1つはウクライナです。例えば今、中国が使っている1隻目の空母はそもそもウクライナから買っています。また製造する際

にも、ウクライナのエンジニアが何千人も中国に行って、中国に協力している。それだけではありません。ウクライナが中国に協力しているのは、何もこの空母だけではありません。それ以外のもろもろの武器、戦闘機もミサイルも含めて、ウクライナは一生懸命中国に協力しています。

そして中国は、西側陣営からも武器の技術を手に入れています。西側陣営の最先端の技術を中国に提供しているのは、実はイスラエルなのです。武器の技術や武器そのものも提供しているのです。これは80年代から今日まで続いています。しかも武器の技術の提供は年々増えています。

どういう技術を提供しているかという、戦闘機、戦車、無人機、そしてレーダー、ミサイル、あらゆる最先端の技術を中国に提供しています。それだけではなくて、中国とも科学技術の連携をかなり深めている。例えば、アメリカがファーウェイに制裁をかけています。あらゆる技術をファーウェイに売ってはいけないということですが、イスラエルの TOGA Networks という研究開発センターは、ファーウェイと一緒にイスラエルでやっているものです。

イスラエルの最先端通信技術をこの TOGA という研究開発センターを通じて、中国に提供し続けているわけです。つまりアメリカのファーウェイの抜け穴を作っているのはイスラエルなのです。

さらにイスラエルは実は中国の一带一路の参加国でもあります。イスラエルの2番目の港にハイファという港があります。この港湾の建設は、実は中国の上海国際港務集団が請け負っています。さらにこの会社は25年間の運営権を手に入れています。

ところが、ハイファ港というのはアメリカの第6艦隊がよく寄港する港なのです。しかもイスラエルの潜水艦もこの港に係留していま